

## 幼児向け行事ポスターに求められる要素と子どもの遊びについて

－「さがし絵」の要素を持つポスターを見た子どもの反応から－

岡本 直行<sup>1)</sup>＊

1) 新見公立短期大学幼児教育学科

(2017年12月20日受理)

「さがし絵」の要素を持つ子ども向けポスターを見た子どもの意識が、ポスターの構成要素の何に向くか明らかにするために、愛媛県内I幼稚園の5歳児25名を対象として、ポスターを見た子どもの様子を観察し、子どもの反応や言葉を記録した。

その結果、色やキャラクターの姿かたち、キャラクターの行動、キャラクターの感情、さがし絵、物語の内容・あらすじ、文字・数字に対して子どもの反応がみられた。また、ポスターの色や絵が、子どもの遊びや表現活動（鑑賞）を誘発する可能性があることも分かった。

子どもの反応の多さから、子ども向け行事向けポスターに必要な要素は、画面を構成するモチーフ（キャラクター）、色彩、レイアウト、文字情報と考えられた。特に、さがし絵に隠されたモチーフを発見した子どもの遊びは、キャラクター探しだけでなく、隠れたキャラクターの数を数える数え遊びに発展するなど、展開が見られた。

子ども向けポスターを制作する際に、これらの要素を盛り込み、子どもに伝えたい内容を効果的にレイアウトすることによって、子どもの興味を引き、形の面白さや色の美しさを感じる子どもの感性を育むことに繋がると考えられる。

また、子ども向けポスターが、画面の中のものを探す遊びやそこから連想する感情表現、知っていることを話す遊び等に発展する可能性もある。これらの遊びは、近年、子どもの造形表現で重要とされる「鑑賞の指導」にも繋がるものと考ええる。

（キーワード）保育内容、造形表現、鑑賞教育、幼児

### 1. はじめに

ポスターとは、人々に伝えたい内容を一定範囲の紙面等に文字や写真、イラストで表現した広告媒体のことである。ポスター制作に必要な要素は、色彩、文字、記号、図案、立体、空間、構図、対比であり、それらを駆使して人目を引き付けるポスター制作を目指すことが望ましい。そのためにはレイアウトを工夫しインパクトある作品作りを心掛ける必要がある。

筆者は「幼児の造形表現について（1）－子ども向け行事ポスターに対する保育者の関わり方－」において、子どもに子ども向け行事ポスターを見せ、子どもの意識が何に向くのかという調査を行った。その結果、子ども向け行事ポスターに必要な要素は、画面を構成するモチーフ（キャラクター）、色彩、レイアウト、文字情報であり、これらの要素を効果的に用いることによって、子どもの興味を引き、形の面白さや色の美しさなどを感じる感性を育むことが可能といえる。また、子ども向けポスターが、画面の中

のものを探す遊びやそこから連想する感情表現、知っていることを話す遊び等に発展する可能性について触れ、これらの遊びが、近年、子どもの造形表現で重要とされる「鑑賞の指導」に繋がる可能性があると考えた。

それは、子ども向け行事ポスターの要素の工夫によって、本来の目的である広告媒体としてだけでなく、子どもの遊びを誘発する素材や、色彩の美しさや形の面白さを見つけ、味わうといった、心を育む表現活動（造形表現における鑑賞）の教材となる可能性も秘めているということである。

本研究では「さがし絵」の技法を追加した遊びの要素を持つポスター制作を行い、それを子どもに見せた時の子どもの反応を観察することによって、子ども向けポスターを見た子どもの意識がポスターの要素の何に向くのかを明らかにし、子どもが興味を持つポスターについて考えることを目的とする。

＊連絡先：岡本直行 新見公立短期大学幼児教育学科 718-8585 新見市西方1263-2

## II. 「さがし絵の要素を持つ子ども向けポスター作品の概要

ポスターとは、人々に伝達したい内容を一定範囲の紙面等に文字や写真、イラストで表現した広告媒体のことである。ポスター制作に必要な要素は、色彩、文字、記号、図案、立体、空間、構図、対比であり、それらを駆使して人目を引き付けるポスター制作を目指すことが望ましい。そのためにはレイアウトを工夫しインパクトある作品作りを心掛ける必要がある。

筆者は「幼児の造形表現について（1）－子ども向け行事ポスターに対する保育者の関わり方－」において、子どもに子ども向け行事ポスターを見せ、子どもの意識が何に向くのかという調査を行った。その結果、子ども向け行事ポスターに必要な要素は、画面を構成するモチーフ（キャラクター）、色彩、レイアウト、文字情報であり、これらの要素を効果的に用いることによって、子どもの興味を引き、形の面白さや色の美しさなどを感じる感性を育むことが可能といえる。また、子ども向けポスターが、画面の中のものを探す遊びやそこから連想する感情表現、知っていることを話す遊び等に発展する可能性について触れ、これらの遊びが、近年、子どもの造形表現で重要とされる「鑑賞の指導」に繋がる可能性があると考えた。

それは、子ども向け行事ポスターの要素の工夫によって、本来の目的である広告媒体としてだけでなく、子どもの遊びを誘発する素材や、色彩の美しさや形の面白さを見つけ、味わうといった、心を育む表現活動（造形表現における鑑賞）の教材となる可能性も秘めているということである。

本研究では「さがし絵」の技法を追加した遊びの要素を持つポスター制作を行い、それを子どもに見せた時の子どもの反応を観察することによって、子ども向けポスターを見た子どもの意識がポスターの要素の何に向くのかを明らかにし、子どもが興味を持つポスターについて考えることを目的とする。

## II. 「さがし絵の要素を持つ子ども向けポスター作品の概要

本研究で使用するポスターは、A短期大学幼児教育学科の学生がB市の「まなび広場にいま」にて行った、表現発表会「にいまこどもフェスタ2016」のポスターである。ポスターには、発表会のタイトルや開催日、開催時間、プログラム等の情報と演目の内容や雰囲気伝えるイラストを配している。子ども向けの表現発表会であることから、文字情報の大半を平仮名表記とした。また、演目のタイトルや雰囲気を想像できること以外に、楽しそう、行ってみたい、この話を知っている等の親近感を感じられる、また、心に残るポスターとなることを目指し、色彩やキャラクター、文字のレイアウトに留意して制作した。制作にはグラ

フィックデザインソフトウェアであるCorelDRAWを使用した。

「にいまこどもフェスタ2016ポスター」 ももたろう

劇「ももたろう」をモチーフに画面を構成した。子ども向け行事ポスターに欠かすことのできない要素であるモチーフ（キャラクター）、色彩、レイアウト、文字情報をバランスよく配置するよう努めた。

特に子どもの意識が向きやすいと考えられるキャラクターに関しては、①「ももたろう、犬、キジ」②「桃、鬼、サル」の2グループに分けてレイアウトすることにした。①グループには原色を基調とした配色を用いて視認性を重視した見つけやすいキャラクターとしてデザインし、②グループには「さがし絵」の要素を含ませることにした。

①グループに属するももたろうの表情は、子どもが好意を持ちやすいと考えられる笑顔とした。犬の口は吠える様子をイメージしやすいように開けることにした。キジは翼を広げ飛ぶ様子を描画した。これらキャラクターの配置は、犬とキジがももたろうのほうに向けることによって、ももたろうのもとに集合するイメージを連想させたいと考えた。

また、子どもは画面の高低で上下空間の位置関係や遠近感を感じる傾向があることから、上下関係については、低い位置に犬とももたろうを、高い位置にキジを配置し、キジが上空を飛んでいる様子を現した。遠近感については、画面の上部にキジを、画面の下部に、犬をももたろうよりもさらに下部に配置し、キジが奥側に、犬が手前にいる雰囲気表現した。

②グループの描画に使用したさがし絵（ダブルイメージ）とは、トリックアート的一种であり、背景や絵の中によく見なければ気づかないように別の絵を書き込む技法のことであり、隠し絵、さがし絵とも呼ばれる。有名な作品としては、19世紀にデンマークの心理学者エドガー・ルビンが考案した「ルビンの壺」や19世紀から存在するといわれる「妻と義母」などがある。また、江戸末期の浮世絵師である歌川国芳が手掛けた「みかけハこはるがとんだい、人だ」もこの方法で描かれている。シュールレアリズムの画家、サルバドル・ダリもダブルイメージ手法を用いた作品を数多く制作している。

絵本におけるさがし絵で代表的なものとしては、1977年に安野光雅によって福音館書店から出版された『旅の絵本』や、1987年にイギリス人イラストレーター、マーティン・ハンドフォードによって出版された『ウォーリーをさがせ』などが挙げられる。旅の絵本は、絵本の各ページに描かれた小さな旅人を探す遊びを展開するものであり、国際アンデルセン賞を受賞している。ウォーリーを探せは、人が絵本の画面全域に入り乱れ、その中からウォーリーや友人たちを探し出す遊びを取り入れたものである。子ども

だけでなく大人も一緒に楽しむことができるため、世界中で大流行し、『ウォーリーにさがせ!』はその人気から『ウォーリーのえほん』『新ウォーリーのえほん』としてシリーズ化された。どちらの絵本も画面の中から特定の人物を見つけるという「さがし絵」の要素を持っている。

子どもがポスターに隠れたキャラクターを発見する遊びの要素を②グループに持たせるために、背景色と同系色の色を用いた線描画とした。背景色の色彩は、ももたろう出生の場面で重要な桃を連想できるように、また、暖かい色で楽しさやワクワク感を感じることできるように、柔らかなピンク色を配色した。柔らかく暖かな画面と調和を取るため、発表会のタイトルである「にいまこどもフェスタ2016」の文字を蛇行させ曲線のレイアウトとした。



図1 「にいまこどもフェスタ 2016 ポスター」

### Ⅲ. ポスターに対する子どもの反応

#### 1. 調査対象者

調査対象者は、愛媛県C幼稚園に通う、5歳児25名である。

愛媛県C幼稚園は、子どもの造形表現活動や子どもの作品展示方法、植物栽培などの工夫を通して、色や形に触れ

合う教育に力を入れておられる園であり、子どもたちは、園生活において環境の色彩やかたちに触れ、感じる事が可能である。子どもの描画表現活動においては、キミコ方式をベースとした指導を行い、物をよく見て自分なりに理解して描かせることや子どもの作品に現れた色や形の発見を認め、褒めることを重視されている。同時に、自然や物を様々な角度から観察し、観察から生まれる子どもの気づきをどのような方法で表現できるかを子どもとともに考える。そのような環境で育つ子どもたちは、自信をもって絵を描くことができるまでに成長している。

#### 2. 調査対象者の選定方法

子どもの造形表現教育を実践される[幼稚園の先生方から、様々な反応や声のあがる可能性が高いこと、これまでに様々な方法によって、色や形、描画方法などの経験があることなどを理由に、「5歳児の様子を観察するのがよい」との推薦を受け、5歳児クラスに在籍する25名を対象者としたこととした。

#### 3. 調査期間

2017年9月4日(2時間)、2017年9月11日(2時間)、2017年9月25日(2時間)、合計6時間

#### 4. 研究方法と内容

本研究では、前述した「ももたろう」のポスターを使用する。物語に登場するキャラクター、背景に隠されたキャラクター、色、文字、数字などで構成されたポスターを、5歳児クラスの自由遊びの時間に保育室に配置し、子どもが自由に見ることを可能とした。その時の子どもの様子を観察・記録した。子どもの興味関心には保育者が対応した。子どもの言葉や行動、保育者とのやり取りなどから、子どもの意識が向かうポスターの要素を調査した。

#### 5. 倫理的配慮

調査対象者が子どもであることから、本研究の目的や方法、内容について子どもの保護者に説明し同意を得た。

### 結果

ポスターを見た子どもたちの反応を大別すると、「色に対する反応」「キャラクターに対する反応」「キャラクターの姿かたちに関する反応」「キャラクターの行動に関する反応」「キャラクターの感情に関する反応」「さがし絵に関する反応」「物語の内容・あらすじに関する反応」「文字・数字に関する反応」であった。子どもたちの反応や言葉は以下のとおりである。

| 反応の種類             | 子どもの様子や言葉   |
|-------------------|---|
| 色に関する反応           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体がピンク色できれい（指で背景を指さす子どもあり）</li> <li>・真ん中が黄色で周りがピンク色（色の变化する箇所を指でなぞる）</li> <li>・桜の色（背景色を知っている花の色に例える）</li> <li>・色がふわっとしている（背景色のグラデーションに対する言葉）</li> <li>・ももたろうの着ている服の色がきれい</li> <li>・ももたろうは、赤、緑、白、ピンクで塗られている（色面を指さす子どもあり）</li> <li>・鳥の色がたくさんあってきれい</li> <li>・ピンク、赤、黄色、白、青、黒（ポスターに使用している色を全て言葉にする）</li> </ul> |
| キャラクターの姿かたちに関する反応 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ももたろうがいる</li> <li>・犬がいる</li> <li>・シロがいる（はなさかじいさんに登場するキャラクター名と混同している）</li> <li>・鳥がいる</li> <li>・飛んでいる鳥はキジ（鳥の種類を答える）</li> </ul>  |
| キャラクターの行動に関する反応   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ももたろうが歩いている</li> <li>・ももたろうが鬼退治に行っている</li> <li>・鳥が飛んでいる</li> <li>・鳥はこうやって飛ぶんだよ（両手で翼を表現し羽ばたいて見せる）</li> <li>・犬が吠えている（「ワンワン」と鳴き声で表現する子どもあり）</li> <li>・犬やキジが集まっている</li> <li>・犬が「一緒に行くよ」と言っている</li> <li>・犬がももたろうに話しかけている</li> </ul>  |

|                  |   |
|------------------|---|
| キャラクターの感情に関する反応  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ももたろうが笑っている</li> <li>・犬がももたろうを応援している</li> <li>・犬はももたろうのことが好き</li> <li>・みんな嬉しい</li> </ul>  |
| さがし絵（遊び）に関する反応   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（背景に）桃を見つけた</li> <li>・桃が隠れている</li> <li>・桃がいっぱいある</li> <li>・「ひとつ・ふたつ・みっつ」（桃の数を数える）</li> <li>・桃と一緒に鬼がいた</li> <li>・鬼が隠れている</li> <li>・（鬼は）ももたろうに見つからないようにしている</li> <li>・ここにも鬼がいる</li> <li>・鬼の数を数える</li> <li>・サルを見つけた</li> </ul> |
| 物語の内容・あらすじに関する反応 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ももたろうのお話を知っている</li> <li>・ももたろうは悪い鬼をやっつけに行くんだよ</li> <li>・みんなが力を合わせて鬼退治する</li> </ul>  |
| 文字・数字に関する反応      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ももたろうと書いてある</li> <li>・知っている数字を読む</li> </ul>   |

## 考察

ももたろうのポスターを見た子どもの感想には、画面に何があるかというキャラクターや文字に注目したものや色彩や雰囲気に関するもの、ももたろうや犬、物語を自分が知っているという主張に関するもの、ももたろうや犬の動向や気持ちに関するもの等が見られた。

子どもからの反応が多かったのは、キャラクターを見つけたことであり、特に、背景に隠れた桃や鬼、サルの発見においては子どもの喜びが大きいようであった。次にキャラクターや物語を知っているということ、順にキャラクターや画面等の色彩に関すること、であった。中には、キャラクターが「鬼退治に行こうとしている」「吠えている」「飛んでいる」といった行動についての反応もあり、子どもの

感受性の高さに驚かされた。また、知っている平仮名を口にする子どももいた。

この調査から、ポスター等を見た子どもの意識が最も集まるのは、登場するキャラクター等のモチーフであり、画面のモチーフに知っているものを発見すると、それを主張する行為は、子どもの描画の発達における「カタログ期」に見られる、知っていることを描画するのと同様の表現と考えられる。特に、背景に隠れたキャラクターを見つけた子どもは、その驚きや喜びを保育者や筆者に伝えてくれた。また、複数隠れている桃や鬼の発見では「ここにもいる」「いち、にい、さん・・・」と声を出して数を数える子どもも見られた。さがし絵の要素が子どもの遊びを誘発したと考えられる。

「鬼退治に行く」「犬が吠える」「犬やキジが集まっている」等の言葉からは、キャラクターの衣装や姿勢（形）、色等から、何をしているのか、どのような感情を持っているか、また、姿かたちと物語を関連付けて行動を推測していると考えられる。また、「キジが飛んでいる」という言葉からは、画面の高低の位置の関係を自然空間の上下関係や遠近感ととらえた可能性もあると考えられる。

画面構成の色からは、「色が綺麗」「ピンク、あか、きいろ、しろ、あお、くろ」といった色味に対する直接的な感じに加え、「ふわっとしている」「うれしい」等、色から想像されるイメージや体感温度等を感じていることがわかる。

これらの点から、子どもは画面を構成するものの色彩から色彩学でいう各色のイメージをつかみ、色のイメージとキャラクターの姿形と融合させて、キャラクターの感情を推測していると考えられる。

以上の調査結果から、子ども向けポスターに有効な要素は、①画面を構成するモチーフ（キャラクター）やポーズ②モチーフや背景の色彩③レイアウト④文字等の情報、であると考えられる。また、今回使用したポスターに取り入れたさがし絵の要素は、子どもが楽しむことのできるポスターとして有用であり、「さがし絵」の要素を持つ子ども向けポスターが、画面の中のものを探す遊びやそこから連想する感情表現、知っていることを話す、数を数えるといった遊び等に発展することが確認された。これらの遊びは、近年、子どもの造形表現で重要とされる「鑑賞の指導」にも繋がるものとする。

#### IV. まとめ

子どもが「さがし絵」の要素を持つ子ども向け行事ポスターを見た時に、子どもの意識が何に向くのかという調査から、子ども向けポスターに必要な要素について考えた。また、ポスターを用いた子どもの遊びや表現活動（鑑賞）の可能性について検討した。

その結果、子どもの意識が最も集まるのは、登場するキャラクター等のモチーフであり、特に、知っているものを発見すると、それを主張することがわかった。視認性のよいキャラクターはもちろんであるが、背景に隠されたキャラクターを発見する子どもの喜びは格別であった。トリックアートの1種である「さがし絵」は子どもの遊びを誘発しやすいこと、キャラクターをさがす遊びだけでなく、数を数える遊びにまで発展することが分かった。子どもが夢中になる遊びの要素を盛り込むことによって、行事ポスターが遊びや鑑賞の教材となりうる可能性が高いと考えられる。

また、キャラクターの表情や姿勢、色等から、キャラクターの行動や感情を推測し、画面構成の色からは、色から想像されるイメージ、体感温度等を感じていることがわかった。子どもは画面構成の色彩から各色のイメージをつかみ、キャラクターと融合させて、キャラクターの感情を推測していると考えられる。

以上の結果から、子ども向け行事ポスターに必要な要素は、画面を構成するモチーフ（キャラクター）、色彩、レイアウト、文字情報と考えられる。子ども向けポスターを制作する際に、これらの要素を盛り込み、子どもに伝えたい内容を効果的にレイアウトすることによって、子どもの興味を引き、形の面白さや色の美しさを感じる子どもの感性を育むことに繋がると考えられる。

また、子ども向けポスターが、画面の中のものを探す遊びやそこから連想する感情表現、知っていることを話す遊び等に発展する可能性もある。これらの遊びは、近年、子どもの造形表現で重要とされる「鑑賞の指導」にも繋がるものとする。

つまり、子ども向け行事ポスターを構成する要素に、子どもの興味関心を引き出す内容を盛り込むことによって、子どもの印象に残るポスターを制作することができる。とともに、ポスターが子どもの遊びや鑑賞教育の教材になりうる可能性を秘めているのである。

#### 文献

- 1) 吉村雅利；絵画の深層「隠し絵」の研究と写本挿画調査，お茶の水女子大学高等学校研究紀要，2017
- 2) 楊火玄 謝?丞 優秀 林耕儀 楊子霆；優秀ポスターを構成するデザイン要素の研究，デザイン学研究，日本デザイン学会，14-15，2009
- 3) 川部大輔；北海道子ども学会大会ポスターデザインにおける視覚伝達効果の検証と総括，北星学園大学短期大学部北星論集15号，53-63，2017
- 4) 加藤之敏；イラストレーションとデザイン基礎教育，常葉大学造形学部紀要，61-69，2016
- 5) 三井直樹 三井秀樹；色彩デザイン学，六耀社，2009

- 6) 松島励路；技法講座, (14)稲垣考二-ダブルイメージによる裸婦像, 美術の窓, 生活の友社, 1999
- 7) 小山清男；ダリの柔らかい時計, 図学研究24, 日本図学会, 25-28, 1990
- 8) 藤井貴志；安部公房『壁』の中の〈ダリ〉—〈偏執狂的批判的方法〉と〈異形の身体〉表象—, 愛知県立大学日本文化学部論集 第7号, 65-102, 2015
- 9) アル・セッケル；錯視芸術の巨匠たち(坂根巖夫 訳), 創元社、2004
- 10) 千足伸行監修 石鍋真澄, 島田紀夫, 福部信敏, 大高保二郎, 名取四郎, 諸川春樹；新西洋美術史, 西村書店, 1999
- 11) 若杉雅夫；幼児の絵の発達段階とその援助と指導について, 東海女子短期大学紀要, 1998, 147-157
- 12) 東裕子；子供の絵の表現形式についての一考察 I, 清和女子短期大学紀要, 1975, 42-69